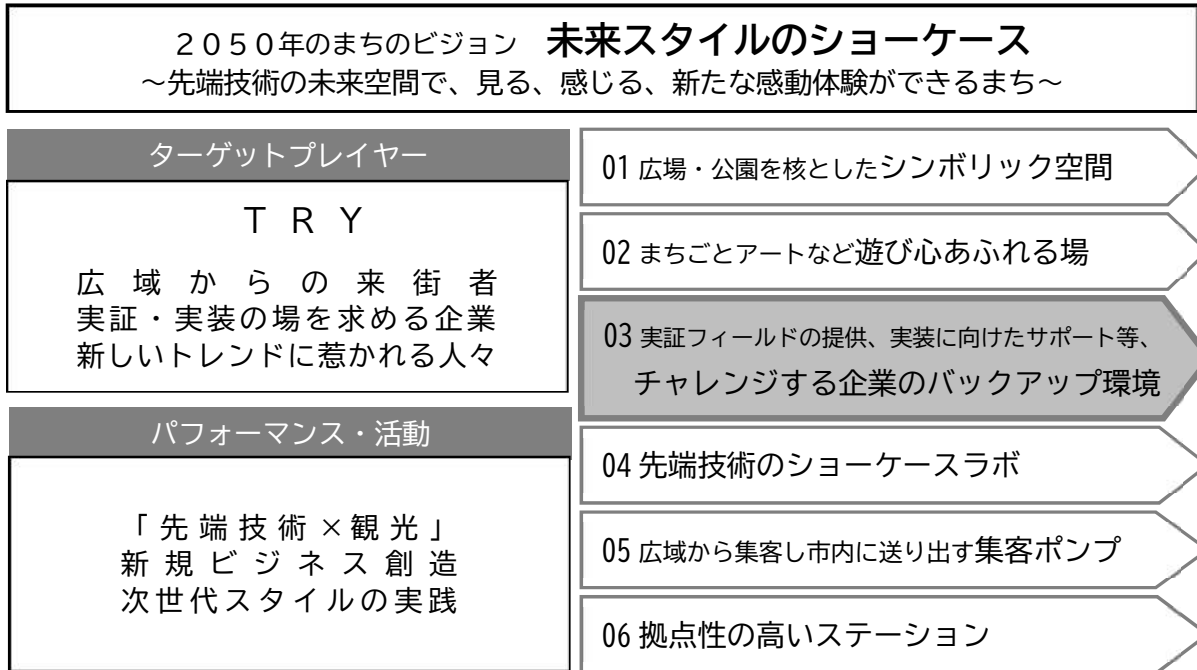


魅力的なまちづくりについて

【～先端技術の未来空間で、見る、感じる、新たな感動体験ができるまち～東田地区】

1 「2050まちづくりビジョン（東田地区）」（令和4年3月策定）

- 小倉・黒崎・東田の3地区について、概ね30年後の地区の将来像を示した。
- 官民で将来のまちの姿を共有し、意欲あるステークホルダーと議論を深め、できることから柔軟に取り組みを進めていく。



2 「東田・未来都市プロジェクト～The Higashida Future City Project～」

先端的なサービス・技術等の導入により、未来社会の先行実現を目指し、社会課題の解決につながる実証・実装事業を推進する。

○ プロジェクトの推進体制

- ・産官学民による「東田・未来都市プロジェクト推進コンソーシアム」を設立
(令和4年8月)

○ 主な実証事業等

- ・回遊性向上を図るMaaS実装に向けたEVモビリティ運行
- ・映像センサーおよびAI解析による施設の混雑状況データ取得 等

<構成メンバーと主な役割>



出典：「東田・都市未来プロジェクト」記者発表資料

東田地区 HIGASHIDA AREA

▶ 策定の背景

人口急減、超高齢社会を迎えるなか、持続可能な都市形成のためには、官民が連携して、効率的な都市整備や生活拠点の魅力向上を図ることが重要です。

そこで、官民が将来に向かってまちのビジョンを共有し、同じ方向に向かってまちづくりに取り組むため、地区の将来像を示す、「まちづくりビジョン」を策定しました。

▶ ビジョンの目的・役割

市にとって

市が考える将来目指すまちづくりの方向性について、あらかじめ明示する
【メッセージ】となるもの

民間にとって

まちづくりへ投資を行う際、一つの重要な
【判断材料】とするもの

市と民間にとって

お互いにベクトルを合わせ、将来に向かって同じ方向へと歩んでいくための
【羅針盤】となるもの

▶ 目標年次

一世代先の将来を見据え、2050年を目標年次としています。

▶ 対象エリア

スペースワールド駅周辺
概ね1kmのエリア



【対象エリア】

▶ 「将来トレンド」と「地区特性」から描く2050年のまちの姿

ビジョンの描き方

STEP.1 「将来トレンド」を掴む

STEP.2 「地区特性」を把握する



【これからの社会で「当たり前」になっていく価値観】



【地区の強みと課題】

ビジョンの描き方

STEP.3

「将来トレンド」と「地区特性」から地区の「将来の姿」を描く



未来スタイルの
ショーケース

先端技術の未来空間で、見る、感じる、
新たな感動体験ができるまち

ターゲットプレイヤー

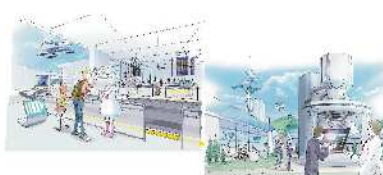
- 広域からの来街者
 - 実証・実装の場を求める企業
 - 新しいトレンドに惹かれる人々
- TRY

パフォーマンス・活動

- 「先端技術×観光」が生み出す新たな感動体験
- 未来を切り開く新規ビジネスの創造にチャレンジ
- 最先端トレンドをキャッチし、次世代スタイルを実践

▶ まちづくりの方針

- 01 広場・公園を核としたシンボリック空間
- 02 「まちごとアート」など、遊び心あふれる場
- 03 実証フィールドの提供、実装に向けたサポート等、チャレンジする企業のバックアップ環境
- 04 先端技術のショーケース・ラボ
- 05 広域から集客し、市内に送り出す集客ポンプ
- 06 拠点性の高いステーション





～ 近代日本の産業革命の地「八幡東田」で、未来社会の先行実現を目指す事業者を支援 ～

「東田・未来都市プロジェクト」 令和5年度の新規参画事業者の募集を開始します！

北九州市は、デジタル技術を活用した環境・経済・社会の好循環によるSDGsの加速化、脱炭素社会の実現に向けて、八幡・東田エリアで2030年頃の未来社会の先行実現を目指す「東田・未来都市プロジェクト」を昨年8月18日に始動しました。

プロジェクトでは、産官学民によるコンソーシアムがフィールド調整などの支援を行い、全国初となる「人流センサとGPS、独自の分析技術を用いたバス課題実証実験」など、社会課題の解決に向けた革新的な実証・実装事業が動き出しています。

このたび、令和5年度の新規参画事業者の募集を開始しましたので、下記の通りお知らせします。

1 公募概要

(1) 募集内容

以下の分野から、一つ以上の先端的なサービス・技術等の導入により、社会課題の解決に資する実証・実装の取組及び規制改革事項(任意)を募集します。
(分野) 移動・交通、物流、観光・商業、社会福祉、ヘルスケア、環境・エネルギー、防犯、防災、その他

(2) 支援内容

① 実証フィールドの調整

東田地区に所在する博物館群等公共施設、THE OUTLETS KITAKYUSHU やイオンモール八幡東など、解決したい課題に応じた多種多様な実証フィールドを提案・調整します。

② ワンストップによる実証支援

「北九州高度産業技術実証ワンストップサポートセンター」での経験を生かし、許認可や地元関係者等の調整をワンストップで支援します。

③ 資金獲得の支援

国や市の各種補助金等の獲得を支援します。

④ 規制改革の支援

よりビジネスがやりやすくなるよう、国家戦略特区を活用して、必要な規制改革提案を国に対して行います。

⑤ 事業者間の連携支援

プロジェクト参画企業はもちろんのこと、研究機関やスタートアップ企業など市が有するネットワークを通じた事業者間のマッチングを行い、新たなビジネスの創出を支援します。

(3) 応募資格

- ① 個人を除く企業・研究機関・団体等
- ② 本プロジェクトに参画し、応募した取組を東田地区及びその周辺地域で実証・実装する意向がある事業者

(4) 応募期間 随時募集

(5) 応募方法等

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kikaku/28500216.html>



2 実証フィールド

東田地区は、日本初の近代高炉が立地した「産業革命の地」であり、過去の甚大な公害を産学官民の連携で克服した経験や、製鐵所跡地での「環境」をテーマとした持続可能なまちづくりなど、技術、人材、ノウハウなどの様々な地域資源が蓄積されています。

THE OUTLETS KITAKYUSHUをはじめとする商業施設、博物館群、昔ながらの商店街など、様々な属性の実証フィールドが利用できるだけでなく、それぞれがエリア内にコンパクトにまとまっているため、組み合わせることで活用することにより多様な実証ニーズに対応可能です。



(参考) 実施中の主な実証事業

(1) **全国初** 人流センサと GPS、独自の分析技術を用いたバス課題実証実験

○概要

市営バスに、GPS と連動させた IoT センサを設置し、乗降者数をカウントして利用状況の把握・分析を行うと同時に、CO₂濃度の計測による車内環境の見える化を行います。事業者はバスにセンサを取り付けるだけで、簡易に正確な利用状況を把握・分析し、効率的・効果的な運行計画等の策定が可能となることから、市営バスのみならず全国の公共交通のサスティナビリティ向上に貢献すると考えています。

○実施主体 (株)村田製作所(京都府長岡京市、代表取締役社長：中島 規巨)
SWAT Mobility Japan (株)(東京都中央区、代表取締役：末廣 将志)

○実施時期 令和5年5月1日から実施中
(半年程度を予定)

○実施場所 北九州市営バス8台



市営バスと設置する IoT デバイス

(2) 東田スマートミュージアム (センシング)

○概要

東田エリアの文化施設にカメラセンサを設置し、映像を AI 解析によって混雑状況をデータとして取得します。データは、(株)ラックが提供するセキュア IoT プラットフォーム「smart town」に収容し、新開発のデータ提供 API によりプロジェクトコンソーシアムに提供しています。

※smart town は (株)ラックの登録商標です (登録 6667849)

※個人情報やプライバシーに関わるデータは取得せず、センサ側で AI 解析を行い、解析結果 (日時、検知人数等) のみ送信しています。

○実施主体 株式会社ラック
(東京都千代田区、代表取締役社長：西本 逸郎)

○実施時期 令和4年2月から実施中

○センサ設置場所

スペース LABO、いのちのたび博物館、環境ミュージアム
官営八幡製鐵所旧本事務所眺望スペース



環境ミュージアムに設置中のセンサ

(3) 次世代電動マイクロモビリティ

○概要

独自のバランスアシストシステムにより、安定性に優れ、安全に利用できる次世代マイクロモビリティをグリーンパークの職員が敷地内で業務用に使用することで、業務の効率化・生産性向上への効果等を測定します。

本年3月には、イオンモール八幡東で市民試乗会を行いました。

○実施主体 株式会社ストリーモ
(東京都墨田区、代表取締役：森 庸太郎)

○実施時期 令和5年3月7日から実施中 (3か月程度を予定)

○実施場所 北九州市立響灘緑地/グリーンパーク



次世代電動マイクロモビリティ「ストリーモ」